

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	53	—	事業名	農業振興事業	担当部課	建設部みどりの推進課
------	----	---	-----	--------	------	------------

基本情報	総合計画	基本方針	1	万博理念を継承し、自然・環境にこだわるまち	会計	1	一般会計
		分野別項目	7	農のある暮らし・農のあるまちを支える	款	5	農林水産費
		施策の進め方	—		項	1	農業費
	まちづくり 行程表	フラッグ	F3	「みどり」～ふるさと(生命ある空間)の風景を子どもたちにへ	目	3	農業振興費
		政策分類	10	“農”が持つ多様な役割をまちづくりに生かす	大事業	2	農業振興事業
	その他(関係法令、要綱等)		長久手市農業振興事業補助金交付要綱、長久手市経営所得安定対策推進費補助金交付要綱、長久手市農業近代化資金等利子補給規則				
事業開始の背景、経緯等		農業の担い手不足や耕作放棄地などの問題対策として、各種補助金制度を充実し、農業振興を行う。					

事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) 耕作放棄地対策事業、農業資金利子補給事業、営農振興事業の補助により農業振興を図る。					
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 農業者、農地					
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 農業者の耕作意欲の向上を図ることにより、農地の有効活用を促し、農業生産を増やす。					
	事業を構成する 事務事業	① 農業振興事務事業	現状維持	④			
	② 米政策対策推進事業	改善・見直し	⑤				
	③		⑥				

コスト推移	項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	事業費(A)	千円	決算	予算			3,097	3,341
決算						2,365	2,487	
人件費(B)	千円	決算			4,227	4,583		
総コスト(A)+(B)	千円	決算			6,592	7,070		

成果推移	成果指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	A	景観作物栽培面積	㎡	目標	—	—	4,104	4,104
実績				—	—	4,104	4,958	
B	米の生産調整の取組面積	ha	目標	—	—	88	84	80
			実績	—	—	83	81	
C			目標 実績					

【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)

A 耕作放棄地の状況を改善し、農業者の農地の利活用につながる、景観作物栽培事業の取組実施面積を成果指標とした。

B 農業者の需要にあった適切な米生産と営農活動を支援する米生産対策推進事業を実施するにあたり、農家が転作による米の生産調整を実施し、米生産量が数量目標値を下まわる必要があるため、農家の米の生産調整の取組面積を成果指標とした。(目標値を下回る必要がある。)

C

環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 米生産対策推進事業は、全国一律に実施されている。
------	-----------------------	--

評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 昨年度以上に耕作放棄地に景観作物を栽培することが出来た。 米の生産調整が順調に進み、作付面積の実績値が目標面積を下まわることが出来た。
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 各種補助事業を実施し、農業者を支援する。 耕作放棄地を含め、農地の利活用を進め、多様な農業者を増やす。

今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 耕作放棄地を含め、農地の利活用を進め、多様な農業者を増やす。 各種補助事業を適切に実施し、農業者を支援することによって、農業者の耕作意欲を高める。
	中長期の目標	(いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 耕作放棄地を含め農地の活用が進み、農業者が増え、農業生産が増える。市内に農に関わる人が増える。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		農業振興事業										
番号	①	事務事業名	農業振興事務事業		款	5	項	1	目	3	大事業	2	中事業	1
事務事業の期間	事務事業開始年度		—		終了（予定）年度		—							

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 農業者に対し、耕作放棄地対策事業、農業資金利子補給事業、営農振興補助事業を実施。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 農業者の営農を支援し、事業意欲を高める。

2. コスト推移

項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業費	千円	予算			1,465	1,349	1,276
		決算			1,083	863	

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
景観作物栽培面積	㎡	目標	—	—	4,104	4,104	4,958
		実績	—	—	4,104	4,958	
		目標					
		実績					

4. 事務事業を取り巻く環境変化

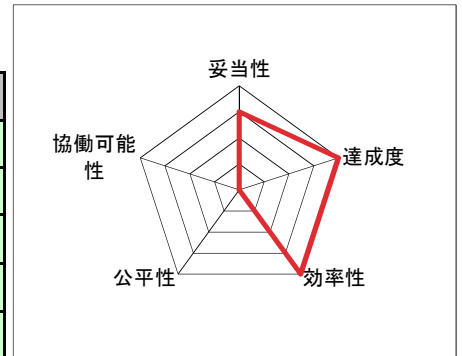
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 農産物直売所の開設による農業振興施策により、耕作放棄地の有効活用が進み、農産物の生産量、販売額が増えたが、直売所の売場面積が限られているため、ここ数年販売額は頭打ちであり、出荷者数は漸減している。また大型商業施設の開設が相次ぎ、農用地が減少してきており、また農業者の高齢化が進んできている。耕作放棄地の活用による農用地の確保と新たな担い手の育成が求められている。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント> 平成27年度全国都市緑化あいちフェアの事業の一環として実施された耕作放棄地対策事業を来年度以降も継続して行っていく。 (何をどのような状態に改善したのか) 農業者の耕作意欲を高め、農地を利活用し、耕作を推進することにより農産物の生産を増やした。
--

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	4
効率性	4
公平性	—
協働可能性	—



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど) 20年来の耕作放棄地が景観作物栽培により、解消された。
--

【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど) 今後は景観作物栽培から、農業生産の向上につながる農業者による農産物栽培への転換を図る。

7. 今後の方向性

現状維持

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など) 景観作物栽培は引き続き行います。 農産物の生産量、販売額が増えたため、農産物直売所の売場が手狭となり、販売額が停滞している。更なる農業振興を図るため、直売所の売り場面積の拡大を図ります。 耕作放棄地の活用と新しい担い手の育成を図るため、農に関わる情報交換、農地の貸し借りをすすめるサポートセンター事業を推進します。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

				事業名	農業振興事業								
番号	②	事務事業名	米政策対策推進事業	款	5	項	1	目	3	大事業	2	中事業	2
事務事業の期間	事務事業開始年度			—			終了（予定）年度			—			

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 農業者に対し、米生産調整推進対策補助金事業、転作用種子配布事業等を実施。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 農業者が必要にあった適切な米生産を行い、あわせて活発な営農活動をする。

2. コスト推移

項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業費	千円	予算			1,632	1,992	7,631
		決算			1,282	1,624	

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
米の生産調整の取り組み結果	ha	目標	—	—	88	84	80
		実績	—	—	83	81	
		目標					
		実績					

4. 事務事業を取り巻く環境変化

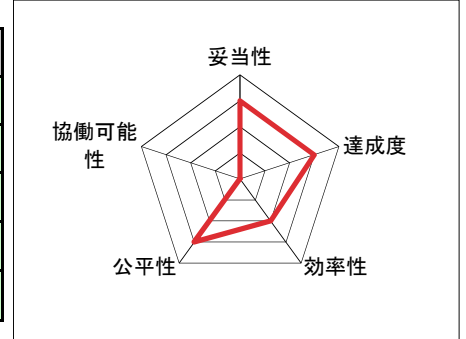
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
国の経営所得安定対策に対応して、業務を進める。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
今年度新規対象
(何をどのような状態に改善したのか)
—

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	2
公平性	3
協働可能性	—



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
米の生産調整が順調で、目標を達成できた。

【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
水田管理システムの老朽化、稲作農業の担い手の高齢化。

7. 今後の方向性

改善・見直し

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
業務の遂行に必要な水田台帳システムを更新し、水田耕作の管理の効率化を図ります。その上で、水田の利活用を進め、水田耕作の活発化を図ります。また耕作放棄地の積極的利用と稲作を含めた農業の担い手育成を進めるため、農に関わる情報交換、農地の貸し借りをすすめるサポートセンター事業を推進します。